

真夏の瀬戸内紀行(その3)

高松～土庄航路に乗船

2021-7-30 池田良穂

高松に到着して、ホテルのチェックインまで時間があったので小豆島フェリーの船で小豆島の土庄まで往復することにしました。カーフェリーで1時間、高速旅客船で30分の行程です。ちょうど出港するカーフェリー便が危険物搭載便となっていて、旅客の乗船ができなかったので、高速旅客船「スーパーマリン」に乗船しました。この船はデッキにはでられないので、30分間座席で窓からの景色を眺めていました。小型の高速客船ではオープンデッキに出られない船が多いのが残念です。

土庄で30分ほどの待ち時間があって、その間、旅客船バース等を見て回りました。

やがて高松からのカーフェリー「第一しゅうどしま丸」が入港してきました。危険物搭載便だったので、4～5台の燃料を積んだタンクローリーが下船しました。島のエネルギーの確保にもフェリーが欠かせないのですね。

車の下船が終わると、乗客と車の乗船が始まりました。この船は、何度か乗船していますが、なかなか快適な客室設備で、オープンデッキも広く、椅子席もありました。ただこの椅子は従来型のプラスチック製のもので、「第十一こくさい丸」に乗った直後だったので、若干の貧弱さを感じてしまいました。

土庄出港時には、岡山航路の両備フェリ

ーの「おりんぴあどりーむせと」、宇野航路の「フェリーてしま」と反航しました。

高松までの間には、小豆島フェリーが土庄～高松航路で運航する全船を順光で写真撮影ができました。もちろん、乗船している船は除いてですが。

高松港内には、航路廃止となった内海フェリーの新「ブルーライン」が岸壁で係留されており、港内の四国ドックでは2隻のバルクキャリアが建造中でした。

高松港で下船すると、赤の縞々模様の「めおん」、そして「第十一こくさい丸」が相次いで入港してきました。

ビジーポートの名に相応しく、次から次と船が出入りする、船ファンにとっては楽しい港でした。



高松から高速旅客船「スーパーマリン」に乗り、土庄に向いました。航海時間は30分です。

土庄港でのシッフウォッチング



オリーブマリンが入港してきました。



引退した、もう一隻の「オリーブマリン」が港内に停泊していました。よく似ていますが、よく見ると違いがわかります。



豊島経由で宇野へ行く航路の高速旅客船「ひかり」です。



「第一しょうどしま丸」が入港してきました。



この便は危険物搭載便だったので、ガソリンを搭載したタンクローリーが次々と下船しました。

「第一しょうどしま丸」に乗船



土庄港で「第一しょうどしま丸」に乗船しました。



「第一しょうどしま丸」の船内です。



第一しょうどしま丸のオープンデッキです。中央の煙突のように見えるものは、マスト兼客室入口で、右後方に見える小さな排気管が本当の煙突です。



土庄港を出港すると、港口で、岡山からの「おりんぴあどりーむせと」と反航しました。



左に旋回して針路を南に向けた後、豊島から入港する「フェリーてしま」と反航しました。

航海中には、小豆島フェリーの土庄～高松航路船全船と反航しました。もちろん、乗船している「第一しょうどしま丸」だけは無理ですが。



最初に「第二しょうどしま丸」と反航しました。



続いて高速旅客船「スーパーマリン」と反航しました。



「オーリーブマリン」との反航です。客室とブリッジの間の線の色が違っているので見分けができます。



高松港に入る直前に「しょうどしま丸」と反航しました。「第二しょうどしま丸」が 2003 年、「しょうどしま丸」が 2017 年、「第一しょうどしま丸」が 2020 年の建造ですが、客室デッキの構造が少しずつ変化していることが写真からわかります。

高松港



高松港内の四国ドックでは 2 隻のバルクキャリアが建造中。



旧宇高フェリーの岸壁に新「ブルーライン」が係留されていました。



上陸すると、出港準備中の「第一しょうどしま丸」の陰から、雌雄島海運の「めおん」が姿を現しました。



「めおん」から下船する乗客はとても多く、女木島、男木島が観光の島として脚光を浴びていることが分かります。離島航路活性化の成功事例です。